



## 自分で考え判断し生活できる陶の子に

校長 加納 素介

陶小学校は、今年度、岐阜県金融広報委員会から「金銭教育研究校」としての委嘱を受け、研究・実践に取り組んでいます。「金銭教育」とは、お金に関する幅広い学習を通して、「生きる力」を育む教育です。お金に関する知識や能力を身に付けていくことは、人が生きていく上で欠かせません。金銭教育は、子どもたちの「生きる力」を育成する上で大切な教育です。

金銭教育の研究主題を「自分で考え判断し生活できる子」～人・もの・お金の大切さが分かり、感謝や自立の心を高める授業の工夫～とし、授業の中で金銭に関わる知識を身に付け、職業調べなどの体験により、判断力や行動力を身に付けようとしています。また、今年度末には、旧陶中学校への校舎移転が計画されています。金銭教育と校舎移転が子どもたちにとって意味のあるものとなるように、全校で取り組む活動(地域粘土題材への取り組み)がスタートしました。

陶といえば陶磁器です。町の名前となっている「陶」を生かし、全校児童111名で焼き物をつくります。粘土での作品づくりを通して、陶の文化、産業(金銭教育)を学びます。地域の方からも陶の話(歴史、文化、陶磁器産業)をお聞きながら、陶を大好きになってほしいと願っています。

こうした取り組みの記憶は、新校舎へ移転しても、子どもたちや地域の方に受け継がれていくと期待しています。

そうした願いを込めて、各学年の焼き物題材を全校朝会で提案しました。出来上がった作品は、研究発表会当日(11/30)には学校に展示します。陶小学校の子どもたちが、「笑顔になる」こと、「自分で考え判断する」ことを願って金銭教育の実践を進めています。

5月25日には、1年生が「地域粘土題材」に取り組みました。

当日は、陶芸作家の指導、与左衛門窯の水野さんの協力、多数の保護者の方の参観(活動)により、子どもたちは、物をつくることを通して、楽しみながら学ぶことができました。こうした成果を広げていくためにも、今後実施する「地域粘土題材」に、多くの保護者、地域の方に参観(指導)していただけることを願っています。(詳細は各学級通信をご覧ください)



【～粘土でワニの題材～笑顔を見せる1年生】

学年	～金銭教育のねらいを取り入れた「地域粘土題材」・内容～	実施日(参観歓迎)
1年	「つけたりはったり粘土でワニ」粘土を貼ったりつけたりしてワニをつくる。	5月25日(木)
2年	「恐竜のお話」大好きな恐竜のお話を膨らませ、躍動する恐竜を粘土でつくる。	6月20日(火)
3年	「飛び出すお皿」30cmの皿に板状の生き物を貼り、皿から飛び出した面白さを表現する。	7月10日(月)
4年	「動物が住む器」縄文土器のような器の装飾を半立体の動物をモチーフとし華やかに飾る。	6月16日(金)
5年	「生き物バンザイ」動物が天に向かって飛び出すようなダイナミックな造形をする。	6月15日(木)
6年	「私のこまいぬ世界一」小学校の集大成として自分にとって世界一の狛犬をつくる。	7月14日(金)



